The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	彙報
Author(s)	
Citation	懐徳. 1962, 33, p. 95-97
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90378
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

彙報

（懷德堂記念會）

○記念祭典　昭和三十六年十月十四日（土）北濱本會に於て、午後一時半より記念祭典執行。同二時十五分より記念講演會を開き、大阪大學教授藤直幹先生の「日本文化における禮的なもの」と題する講演があつた。

○秋季講座　昭和三十六年十月十六日(月)より二十一日(土)まで、本會及阪大文學部主催、朝日新聞社後援で、毎日午後六時半より八時まで、阪大本部松下會館講堂で、懷德堂講座第二十二回開講。聽講者延二百三十人。

演題と講師

中國の音樂と音樂觀　關西學院大學教授　張源祥先生

喜劇的なものについて　京都繊維大學教授　河本敦夫先生

戲畫の歴史　大阪工業大學教授　森暢先生

繪卷物の話　京都博物館員　梅津次郎先生

宋元の繪畫　京都女子大學教授　中村茂夫先生

漢の畫像石　京都大學教授　長廣敏雄先生

○昭和三十六年十月三十日　赤堀四郎氏（大阪大學總長）理事就任

○同三十六年十一月二十日　小倉理事長老衰のため東京都の自宅に於て逝去。享年八十六歳。法名　正覺院殿恆心簡齋大居士

同二十五日、東京青山葬儀所に於いて、萬人哀悼の裡に告別式が行はれた。ここに當日阪大文學部長と懷德堂とから呈せられた弔辭を錄して、追慕のよすがとする。

弔辭

維れ時昭和三十六年十一月二十日、懷德堂記念會理事長小倉正恒翁の訃音が遽に至つて、我々の心を驚動させました。まことに悲しみに堪へません。當大阪大學文學部が、昭和二十三年に創立されました時、戰後なほ日も淺く、設備もいまだ不充分でありましたが、懷德堂記念會も亦、講堂は戰災に罹り、多くの講師・堂友を失つて、再出發の時機に臨んでゐました。その時翁は、遠く將來に思ひを致され、記念會の藏書を擧げて大阪大學に寄附すると共に、向後の文化事業は阪大と協同して行ふことを提案されました。阪大としてはこの御付託に感じ、また大阪文教に對する責任を考へて御意志に贊同することとなり、爾來主として文學部に於いて、事業の運營に協力してまゐりました。その間、理事長の溫雅な御人格と高邁な御見識とは、常に我々の御信賴申し上げるところでありました。然るに今やその人なくしてその遺業のみが我々の前に在ります。胸せまつて多くを申し述べることが出來ませんが、謹んで文學部一同を代表して弔意を披瀝すると共に、事業の今後の運營に對しては、御付託に負かぬ樣一層の努力を期したいと思ひます。一言蕪辭を陳ねて弔辭といたします。

昭和三十六年十一月二十五日

大阪大學文學部長　村田數之亮

○同三十七年四月一日　今村理事理事長に就任。評議員北澤敬二郎氏、天野利武氏（大阪大學文學部長）理事就任。事業運營委員木村英一、幹事岡野廉平の二氏評議員（兼任）就任。

○春季講座　昭和三十七年五月二十一日(月)より二十六日(土)まで本會及阪大文學部主催、朝日新聞社後援で、阪大本部松下會館講堂に於て、毎日午後六時半より八時まで、懷德堂講座第二十三回開講、聽講者延二百五十五名。

演題と講師

中庸　阪大教授　木村英一先生
顏氏家訓　同　守屋美都雄先生
漢書　立命大教授　平中苓次先生
かなの發生と古典文學　京大教授　阪倉篤義先生
白氏長慶集　立命大教授　高木正一先生
老子第八十章——中國のユートピア——　甲南大教授　秋田成明先生

○同三十七年八月十九日　評議員眞島利行氏逝去。

懷德堂堂會友

昭和三十六年十月一日　『懷德』第三十二號發行
昭和三十六年十月十四日　懷德堂記念恒祭參列祭典奉仕
昭和三十六年十一月五日　森暢先生指導によつて東寺の古美術建築等を見學觀賞し、また島原の角屋の古建築など見學した。
參加者三十餘名
昭和三十七年一月十三日　阪大木村先生研究室に委員參集、會の運營及び行事につき協議し委員補佐增員に決す

弔辭

本日ここに、私が懷德堂記念會を代表して、理事長小倉正恒先生の御靈前に、弔辭をささげることにならうとは、全く豫期せぬことでありました。顧みれば大正二年に、當記念會が設立されまして以來、今日まで既に五十年に近い歲月が流れました。その間、本會が大阪文敎の傳統をついで、一意、文化事業に携はつてまゐりましたことについては、いささか我々の誇りとするところであり、また責任を痛感するものであります。ところで、小倉先生を本會理事長にお迎へしましたのは、昭和二年でありまして、この五十年の歷史のうち實に三十五年間、會員一同は、文字通り父母と仰いで御指導を蒙つてまゐりました。中ごろにして國土は滄桑の變に遭ひ、本會の講堂も戰災を蒙るの憂き目をみましたが、理事長には、常に時世の變を通じて適切な指敎を垂れられ、御蔭を以て先人の遺業を失墜することなくして今日に至るを得たのであります。近年漸く御高齡に達せられるにつれて、一同は一には喜び一には懼れて、竊に御安泰を念じていたのでありましたが、今遽に訃音に接して、萬感去來、言ふところを知りません。ここに一同と共に、ひたすら御冥福を祈り上げると共に、今後、御遺敎を體して、本會の運營に一層の努力を傾けたいと存じます。謹んで誠意を披瀝して弔辭といたします。

昭和三十六年十一月二十五日

懷德堂記念會理事　上野　精一

○昭和三十七年三月三十一日　村田數之亮理事退任。

昭和三十七年四月一日　川尻進、喜多芳子、桐本梅之助、山口正男の四君に委員補佐を囑託

昭和三十七年四月二十二日　臨時見學會として奈良市内新藥師寺頭塔遺趾、福智院、十輪院、元興寺跡及び極樂坊などの古美術を見學觀賞し、又紀寺の裸佛を見學した。參加者二十數名、觀賞欲を充す

昭和三十七年七月八日　森暢先生の指導により滋賀縣甲賀郡石部町の常樂寺、長壽寺の國寶美術建築物を見學觀賞した。參加者二十餘名

昭和三十七年七月二十四日　藤塚誠二氏の御令閨逝去により下寺町大覺寺での告別式に各委員參列

予　告

昭和三十七年十月十四日（日曜）　大德寺祕寶虫干を森暢先生の指導により觀賞の予定につき多數參加を希望す

以上